

‘事象の原因や関係の説明’の過程として授業をつくる

1、授業「アフリカ州の貧困問題について考えよう」

目標：アフリカ州の貧困は、先進国への輸出に特化したプランテーション農業や、発達しても雇用の生まれにくい資源産業から、利益がうまく社会に行きわたらないことが原因であることが説明できる。またそのための知識の習得している。

評価基準：A アフリカ州の国々が貧困状態である理由について、プランテーション農業や資源産業の発達によって生じる問題点に着目して具体的に説明できており、その解決策についての意見が明記されている。

B アフリカ州の国々が貧困状態である理由について、プランテーション農業や資源産業の発達によって生じる問題点について着目して説明できている。

C アフリカ州の国々が貧困状態である理由について、農業や資源について着目してできていない。

<指導案を見ての考察>

この授業の特徴は、事象の原因や理由について説明させるもので、「なぜ？」や「どうして？」の発問が特に目立って見られる。第1章内で出てきた4つの類型に当てはめると、この授業は、第3類型に当てはまると考えられる。また、発問の中でも「のに」や「かわらず」といった、逆説の接続詞が出てくるのも特徴的で、ここで生徒の持つ既存の見方をひっくり返そうとする意図が見られる。

2、授業づくりのプロセスとポイント

(1) 事象の原因や関係の説明の過程としての授業が求められている理由

学習指導要領解説社会編の改善の基本方針

- ①社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させること
 - ②事象の特色や事象間の関連を①を活用する力や課題を探究する力を育成すること
- 「事象の原因や関係」を説明することで、社会科で習得した知識を使い説明する力を養う。

(2) 「事象の原因や関係」を説明する力を育むために

・生徒がまだ身に付けていない社会的な見方や考え方を習得し、活用することができれば、事象の原因や関係について説明する力が育まれたと判断できる。

→一次産品を生産する産業の問題点から貧困が説明できる。

(3) 「アフリカ州の貧困問題について考えよう」の概要

ア、教科書だけでは貧困問題の根本的な原因が分からない。→先進国との貿易から
イ、主題の把握→理論の習得→説明する

3、研究者から見た授業づくりの特徴

(1) 授業づくりの方法的な特徴

- ア、本授業では経済・産業の視点に焦点化して知識を掘り下げている。
内容と視点に合った知識をセットにして授業を構成している。
- イ、問いと資料を使って、貧困の原因を究明していく。
終結では、知識の整理と、貧困の原因の説明をさせて、到達度を計っている。

(2) 授業づくりでさらに考えたいポイント

- ア、原因や関係を探るための問いは「なぜ」←生徒の中でどれだけ成立するか
導入部での揺さぶりが重要になる。
- イ、展開部では単調にならないための「～なのに」「なぜ」の問い
→生徒の既存の知識の変革を促す
- ウ、発展的な終結にするために
解決策や今後の取り組みを考えさせるものが良い。
しかし、ほかの視点からもう一度考えさせるやり方も。

4、メンターから見た授業づくりの特徴

(1) 事象の原因や関係を説明する知識の明確化

まず、講義中心の授業形態では、事実を問うばかりで、原因には触れない。
本授業では

- ・事象の原因や関係を説明するための「質の高い知識」の習得を目標に掲げている。
- ・発問に関連性を持たせて、授業の中で掲げた目標に集まるように構成されている。

(2) 終結の発問の工夫

- ・習得された知識を実際に活用する時間を設けている。
- ・レベルの高い学習内容にすることで生徒がどの段階まで理解ができているのか把握できる。
→授業の振り返りのシーンを設けられれば良かったかも。
- ・地図帳にあるグラフを用いて、貧困の状態を確認できるような活動があればよい。
- ・A評価の段階について→解決策まで考えさせるのは必要か。終結での促しは必須。
- ・「どのような人が喜ぶのか」という言葉の選択

<考察>

- ・事象の原因や関係を説明させるには、導入部や発問での揺さぶりが大切である。
- ・さらに発展させて考えさせるには、活動的な学習を取り入れることや、複数の視点から、事象について考えさせることが有効である。
- ・個人的には授業内で事象の未来像まで考えさせることは重要であると感じた。